

花園の仕事

大 岩 金

寒さをひかえた昨今、日あしも一日毎に短かくなりま

ので、あれもこれもごまごまりもなく雑然と植る集めた花畑に出て見ますれば、しておかなければならない仕事から次へ次へ出来て忙しさに追はれるのであります。この次こそは、今少し整へたいものご氣にはかけながらも來る年もく同じやうなごまごまばかり繰り返しますので、こゝに改めて申し述べます程の事もございませぬが、今月から來月始め頃にかけてしなければならぬ仕事を思ひ浮びましたままに極簡単に書きつらねませう。

一、秋草の始末

(イ)探種

コスモス、サルビヤ、フヤウ、トレニヤ、オシロイ花、などの種子を取るこゝ。わけてもサルビヤ、トレニヤは探種のし難いものでありますから注意しなければなりません。

ん。

(ロ)花後の始末

探種の終つたもので一年草は殘株を抜き取り多年性草(宿根草)は地上部を刈り取る事。

(ハ)名稱札を改める事

ダリヤも餘す所なくなりまして今このうちに札落ちになつて居りますものには花形、色彩等を記入した札を莖の下部につけておくこゝ。

菊は前月に引續き尙綺麗に咲いて居ります。今年の一本人は來年は十數本多きは數十本になるのでありますから、限りある場所に各種各色を混植しやうと思ふやうな場合には特に夫々の心覚えの名稱を附けておかなければなりません。切花用、花壇用として無造作に栽培するには小菊を選んだ方がよいかと思ひます。その爲には花の大、中、小も

記入しておかなければ花後切り取つた株では我々素人には容易に見分けがつかなくなりませう。

二、繁殖

花壇縁取用のリボンサウは葉先が大分痛んで來ましたので株を掘り上げ珠數様にながつた球根を一、二個づゝに分けてやゝ深めに適當な場所に埋めておく事。

モツスフロックス(ハナシバ)は五、六種に切つてなるべく日照のよい所に莖の半分位を埋めておけば來春は相當に枝が繁つて開花が見られます。

蔓バラの挿木、

剪定した蔓バラの丈夫な芽のある枝條を十五種内外(芽は二個以上あるもの)に切り前同様日照のよい場所に莖の半分位を埋めておけばよい。

小菊の芽分、

東京地方では霜柱がかなりひどく立ちますので霜除をしない場合にはなるべく早く芽分けを行つた方がよいやうであります。

なるべく親株から離れた中等大の芽を五、六種に切つて

苗床に植ゑておく事。

その外春咲きの多年性草で丈夫なものなら今のうちなるべく早く株分け、芽分けをしておく事。

三、球根類の掘り上げ

ダリヤ、カンナが霜にあつて莖葉が八分通り枯れて來ましたら地上部を切り取つて掘り上げる事。

ダリヤは必ず芋の上部に莖を一部分つけておく事。芋丈に離れたものは翌春發芽の見込はありません。

掘り上げたものはなるべく日照、排水のよい場所を一米位の深さに掘り之の中以來春まで貯藏しておくこと。一番上は炭俵、亞鉛板の類をのせて雨水のしみ込まぬやうにしておく事。

グラデオラス、地植のアマリリスなども掘り上げておく事。

四、芝刈

本年最後の芝刈を行ふこと。
刈り取つた芝は苗床の小さい苗の上に敷いて霜除にする事。

五、霜除

堪冬性の草花例へばハナビシサウのやうなもので場所の都合で鉢播きしてあるものは鉢の凍結し破損するのを防ぐために鉛每土中に埋めておく。

次に簡単なものでは苗の間に粗殻を敷いてやる事。

切葉を敷く事もあります。

又笹なぎを根元に差しておいても簡単な霜除にはなりません。

鄭寧にするには北側を除き南側を開けた片屋根の覆を致します。

鉢に植ゑてある水蓮なぎは水をきつて中に落葉を入れ庭の類で蓋をしておけばよいのであります。

六、腐葉土の調製

櫟、檜、を始め栗、紅葉、イテフなぎ落葉樹の葉はみな落葉するのであります。みんな掃き集めて庭の片隅に穴を掘り土と交互に積み重ね時々液肥又は水をかけて腐熟させます。

七、耕耘、施肥、害虫駆除

五〇

秋草の後その外空地が出来ましたらなるべく深耕しておく事。

耕す時に基肥として遅効性肥料(骨粉、魚肥油粕の粉末等)を施しておけば尙更よいのであります。

又耕しながら地中に潜在して居る害虫(根切虫、金龍龜の幼虫、夜盗虫の蛹等)は見付け次第捕殺しておく事。

かく深耕する事によりまして充分に寒氣に曝され土は膨軟になり害虫は凍死するのであります。

八、その外垣根の刈込み、蔓バラ、アヂサイ、その他の落葉樹の刈込み植替等も必要に応じてしなければなりません。

